



## みなとからつながる世界

富山県立高岡高等学校 2年 市井 香菜子

私の家は河口の、海の近くにある。

少し歩いてすぐのところには港があって、そこにはたくさんのコンテナや大きな船が泊まっている。小学校のときに見学に行ったが、コンテナにはいろいろな国の言語が書かれていた。外国からの荷物が来るその港にはときどき、地方紙にも取り上げられるような大型の豪華客船が来る。そのときには、私は堤防の上までそれを眺めに行くこともある。その船には世界各国の旅行者が乗っていて、富山県で観光した後、各地の港に泊まりながらクルーズを楽しむのだという。

私がこのことを知ったのは高校に入ってから、つい最近のことだった。自分の住んでいる土地は都市部から離れたところにあるので、まさか世界を回ってきたような船が家の近くに来るとは思わなくてとても驚いた。

自分の住む場所とは無関係な出来事だと思っていたので、豪華客船の寄港という出来事は、こんな場所でも意外なところで世界と繋がっているのだと気付くきっかけになった。

しかし、せっかくこのようなイベントが開催されていても、地元の人の認知度は低い。知らないうちに、世界の人々と交流し、自分のまちをピーアールする機会を無駄にしているのではないだろうか。

実際、観光客に対しては地元の何校かの高校生が通訳ボランティアをしている。私はこういった活動をもっと県全体に広めるべきだと思う。今、新しい情報発信の中心にいるのは若者だ。インターネットやSNSを用い、国を超えて物事を発信することができる大きな力を持っている。その若者たちが地元をピーアールする活動に参加すれば、地元の良さを発見するきっかけにもなるし、彼ら自身が地元の情報発信源になれるはずだ。私もいつか、ボランティアとして通訳の活動をしてみたいと思う。

その上で、都市部だけでなく地方にもスポットを当て、観光を推進していくべきだと思う。日本の観光業はこういうことが、ほかの国々に比べて徹底されていないのではないかと思う。外国にも都市部や地方があるが、都市部ばかりに観光スポットを設置し、観光客を呼び込んでいるわけではない。農村なら農村、漁村なら漁村の良さがある、それに見合った体験やツアーなどを通して魅力を多くの人に伝えている。

これからは、日本の地方でもこれに倣ってそのような活動に力を入れていかなければならないと思う。例えば、各地に伝わる伝統工芸を紹介するためのパンフレットやホームページを作ったり、その技術を活かして現代風の工芸品を新しく生み出したりすることも可能だろう。それを実現するためにも、若者が地元に対する興味をもち、魅力を理解していることが大切だと思う。そうすれば、日本の国家間で、今もわだかまりが生じているのは、互いのことをよく知らないからだと思う。日本の良いところが、国内にとどまらず世界にも広く知れ渡れば、よりよい国際関係を築くことができるようになるだろう。